

外部評価会議における評価対象課題一覧表

課題名	研究目的	主な研究内容
松くい虫被害発生メカニズムの解明と被害木早期診断技術の解明	松くい虫被害が急激に増大していることから、被害木の駆除を徹底して行うため、感染していても外観上症状が表れない「潜在感染木」を診断するための精度の高い診断技術を開発する必要がある。	これまでの樹液流動期における「ヤニ打ち法」に加え、感染による「水ポテンシャル低下」、「木部通導阻害の発生」、「クロロフィル量変化」等を利用した早期診断法を確立する。
長期育成循環施業に対応した高性能機械化等作業システムの開発	コストを低減しながら、環境への影響を少なくする木材の伐採・搬出技術を開発する。また、間伐材等未利用の木質資源の利用を進めるため、これらのエネルギー利用を目指した効率的な搬出方法を開発する必要がある。	長期にわたり間伐を繰り返していく施業に対応した伐採と次代の森林育成を一体的に行う機械化作業システムを開発する。また、間伐材等のチップ化、運搬方法やコストを調査し、木質バイオマスエネルギーの供給方法を確立する。
岩手県の森林の炭素固定機能の評価技術の確立	岩手県における森林の炭素固定量を明らかにし、炭素固定機能の定量的な評価を行う。	既存データや現地調査に基づき岩手県の森林の炭素固定量を推定するとともに、森林の炭素固定機能の貨幣価値等による評価を行う。
新建築基準法に対応する防火処理木材の開発	新建築基準法に対応する防火処理木材の開発を行うため、難燃・準不燃材料の防火基準を満たす製造技術を開発する必要がある。	新基準を満たす木質系防火材料の処理条件を試験し、処理方法を確立するとともに、防火材料への耐光性、耐湿性の付与等を開発する。
新基準に対応した性能保証の住宅部材の開発	品確法の制定や建築基準法の改定に伴い、住宅部材を中心に強度等性能が高い木材製品等が求められており、地域材による商品開発を行うため、当センターが強度試験等に協力しながら地域木材産業と連携する必要がある。	高強度性能の JAS 規格製品として異樹種構成集成材の商品化と性能評価を行うとともに、品確法等新基準に対応可能な壁材や内装部材等の住宅部材を開発する。
多様な森林づくりのための育種技術の開発	多様な森林づくりの要請に応えるため、造林希望の多い樹種については優良な母樹の保存・確保が必要であり、また、収集した母樹からの育種種子、苗木の効率的な生産技術が必要である。	造林希望が多いケヤキ、クリなどの広葉樹等について、県内各地から優良木を選抜して遺伝子資源を収集保存する。また、収集した優良木を材料とする優れた育成品種を開発する。